



中国大都市“上海・北京”における自治体の魅力発信活動紹介

(一財)自治体国際化協会北京事務所 所長補佐 満平 ほたる(宮崎市派遣)、羽根 実咲(長野県派遣)

2020年の新型コロナウイルス感染症拡大以後、日本と中国の往来は未だ難しい状況にあります。そのような状況下においても、中国にある自治体事務所は本庁などと連携し、多種多様な形で中国国内における自治体PR活動を展開しています。本稿では上海市と北京市におけるここ最近の自治体PR活動事例を紹介します。

“上海発”「九州タウン」と「チーム九州」

9月6日に上海市にて開催された「九州タウン」のオープニングセレモニーの様子と「九州タウン」に関連する自治体の取り組みをお伝えします。

1. 「九州タウン」とは

「九州タウン」は九州関連の飲食店を集めた施設で、上海市にある商業ビルの3階に位置しています。同じフロアに「九州和食つくし」「肉屋丸じゅう」「DINING BAR SPIRIT'S NINE」の3店舗が入っており、どの店舗も九州ならではの食事やお酒を楽しめる空間となっています。

創業者である張思奇氏は大分県別府市の立命館アジア太平洋大学に留学生として在籍していたことがあり、そのときから九州人の優しさに触れ、九州に何か恩返しができないかと考え、「九州タウン」開業に辿り着きました。そして、この「九州タウン」開業には「チーム九州」の協力があつたと張氏は言います。

2. 「チーム九州」とは

「チーム九州」は、福岡、長崎、大分、熊本(県・市)、宮崎、鹿児島、沖縄の各県上海事務所および北九州市大連事務所とJR九州で構成する広域連合体です。主な活動内容は、旅行博やイベントなどへの共同出展、国際交流や調査・視察などでの連携、日本酒・焼酎などのプロモーション活動です。普段は中国のメッセンジャーアプリ「WeChat」のグループチャット機能を活用した情報交換やオフラインでの会議と意見交換会も定期的を実施

しています(月1回から数か月に1回)。

オープニングセレモニーの様子

オープニングセレモニーでは、まず張氏からの開会挨拶、続いて在上海日本国総領事館、上海市人民政府外事弁公室、上海市人民対外友好協会、「チーム九州」代表として長崎県上海事務所長がそれぞれお祝いの言葉を述べました。

セレモニー終了後、来場者は九州ならではの食事やお酒とともに歓談の時間を楽しみました。フロア内には張氏が過ごした大分県の街並みをモチーフとした「豊後高田昭和の町 九州通り商店街」の電光掲示板が掲げられており、また「九州和食つくし」では、部屋の名前を九州各県の名前とし、その県をイメージした内装にするなど、細部にわたって九州の魅力を来場者に伝える工夫がなされていました。



電光掲示板と九州各県のものばり 各県をイメージした部屋

今まで、そしてこれから

上海市は2022年4月から6月にかけて、新型コロナウイルス感染症拡大封じ込め措置による都市封鎖(ロックダウン)に見舞われました。そのような状況の下、前向きに「九州タウン」開業の準備を進め、今回開業できたことは沢山の人の気持ちを明るくしたことと思います。そして「チーム九州」が開業に貢献したことは、大きな意義があつたと感じます。

今後、九州の魅力が広まっていくことを願うとともに、

クレア北京事務所としても各自治体の魅力発信および連携促進に努めていきたいと思いをします。



フロア入口に掲げられた看板

「北京発」国際冬季スポーツ博覧会 (WWSE) の開催

続いて、北京市の状況をお伝えします。北京市では9月1日から5日の会期で、北京オリンピックシティ発展促進会と国家数拠集団が主催する「国際冬季スポーツ博覧会 (WWSE)」が開催されました。WWSEは9月1日と2日をB to Bイベント、3日から5日をB to Cイベント (一般開放) として実施される国家級博覧会で、政府機関や冬季スポーツ関連産業に従事する企業がブースを出展し、ビジネスマッチングや消費者へのPRを行う貴重な機会となっています。

当該イベントの会場は、北京市石景山区に位置する首钢園区と呼ばれる観光地です。2020年に工業施設を観光地として整備した当該エリアは各種展示会の開催会場としても利用されています。2022北京冬季オリンピック・パラリンピック競技大会の開催をきっかけに地下鉄11号線が開通し、北京市中心部から約1時間程度でアクセスできるようになりました。



WWSE会場となった首钢園区の様子



冬季オリンピック・パラリンピック競技大会仕様の地下鉄11号線

今年度 WWSE の日本関連エリアについては、日本政府観光局 (JNTO) や新潟県、山形県、秋田県、青森県の各自治体、そして東急ホテルなどがブースを出展しました。本稿では、JNTO が出展したブース内のステージ

イベントで、長野県が県上海事務所・県観光機構 (中国レップ)・クレア北京事務所と連携し、県内冬季リゾート地の紹介を行うプレゼンテーションを実施したのでその様子を紹介します。

「雪国 NAGANO」の中国人向けインバウンド促進PR

長野県のステージイベントは、1回あたり30分 (プレゼンテーション15分/クイズ大会15分) で構成され、一般開放日となる9月3日と4日に計5回行いました。各回恒常的に30名近くの中国人参観者が足を止め、スライドを写真に収めたり、発表に深く傾きながら参観したりする様子が見られました。

特にクイズ大会の場面では、前段のプレゼンテーションで説明した白馬や志賀高原などの県内冬季リゾート地の特徴に関する問題を用意しましたが、各選択肢を表示する前に多くの方が手を挙げて直接解答していただける様子が見られ、人々の関心の高さがうかがえました。

長野県のパンフレット配布やPR動画の放映もJNTOブースで行われ、終日大盛況のうちに幕



長野県のステージイベントの様子

中国における訪日観光再開への期待

JNTO ブースでは他自治体や企業 (JAL など) も動画放映・パンフレット配布などのPRを実施しており、隣接する各自治体・企業ブースを含め日本関連の展示エリアは、WWSEの他国ブースと比較し、常に混雑していました。他国に先駆け新型コロナウイルス感染症拡大を抑え込んでいる中国ですが、未だ「ダイナミックゼロコロナ政策」終焉の見通しは立たず、訪日観光にも色濃く影を落としています。一方で、会場を訪れた参観者からは「往来再開が待ち遠しい。日本にぜひ行ってみたい」との声がよく聞かれました。クレア北京事務所では今後も、自治体の魅力発信事業を支援し、中国人の潜在的な訪日観光意識に訴えかけられるような活動を積極的に展開していきたいと思いをします。